ainoha

ー アイバノコトノハ ー

特集　暮らしを豊かにする庭を訪ねて

小林賢二さんとつくる庭

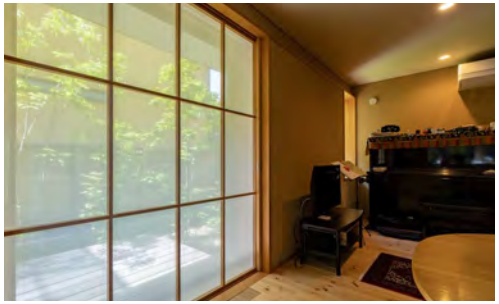
take free
ご自由にお持ち帰りください

2021＊June vol.114

特集　小林賢二さんとつくる庭①

リビングにゆとりをもたらす広い坪庭

東京都武蔵野市｜木造一戸建て（i-works）｜H邸（ご夫婦＋お子様2人）



1
ストーリー

今回ご紹介するのは、造園家・小林賢二さんが手掛けた２軒の素敵なお庭。1軒目は、家の建て替えと共に造園し1年が経ったH様邸です。ご夫婦揃って相羽建設のモデルハウス「つむじ」の空間を気に入り、雰囲気そのままにとお庭も「つむじ」の作庭をした小林さんに依頼。「広い坪庭」というご主人の表現がしっくりくる、伸びやかさと緑に包まれるような落ち着きを併せ持つお庭に仕上がりました。オープンな造りの外構から、野草が彩る小径、そして奥にあるお庭へと誘われます。木漏れ日がデッキや敷石を照らすのはもちろん、「雨が降っても素敵なんですよ」と奥様。「限られた敷地ですが、お庭があることで新しい空間ができました」と満足そうに微笑みます。室内に居ても外へと広がりを感じられるよう、リビングとお庭とが繋がるよう間取りを工夫。「窓が一つの絵画のようで、他に何か飾らない方が絵になる家ですね」と奥様が仰るように、大きな窓がお庭の緑を切り取ります。新緑や咲き誇る花、紅葉と、季節の移り変わりを春夏秋冬一通り楽しまれたご夫婦に、お庭のポイントやライフスタイルの変化などを伺いました。

外構には初夏から秋にかけて白い花が咲くタマスダレを植栽。

1.大きな引き戸を開け放つと、お庭とリビングとが一体に。2.「つむじ」と同様の木のガラリ戸。3.レース障子も「つむじ」で気に入り採用。4.キッチンからの眺め。5.リビングからデッキがフラットに伸び、もう一つのくつろぎの場に。

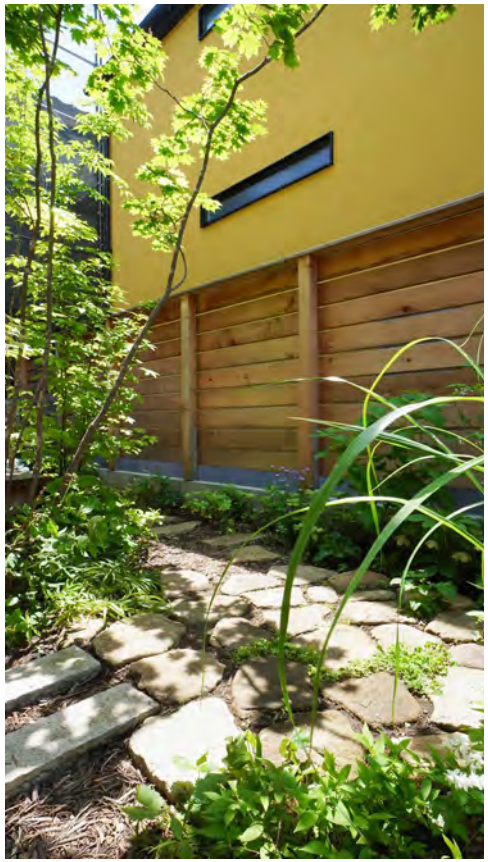
ウッドデッキでお茶を飲んだり新聞を読んだりするのがお気に入り。

▲ 木漏れ日が心地いいウッドデッキ

ウッドデッキからお庭を眺めながら「開放的ですが守られているように感じます」とご主人。近くに高い木を置く小林さんの手法が斬新だったと言います。家時間が長くなっても、お庭とウッドデッキのおかげで家族全員心地よくお過ごしだそうです。

毎日発見がある コートガーデン ▼

お庭は「四季折々の花を楽しめるように」と依頼。娘さんが小さい頃に植えたキンカンを残しつつ、ヤマモミジやツツジなど、季節を教えてくれる植栽がちりばめられています。お庭にどんな変化が起きているか、毎朝点検するのが日課になったそう。



1.南側に家が建つことを前提に植栽を計画。2.カエデの影がウッドデッキに表情をもたせる。3.ブルーベリーは収穫が楽しみ。4.色鮮やかなミヤコワスレ。

1 2 3 4

小林賢二さん直筆のプラン

取材後記

交差点を曲がると、ウッドフェンスとタマスダレの緑が目を引き、すぐにH様邸だと分かりました。初夏を感じる日差しが強い日にお邪魔しましたが、植栽のおかげで涼しい風が抜けるお庭。心地よいひと時をありがとうございました！（記：ライター大川）

設計・施工：相羽建設
庭プランニング・施工：Kobayashi Kenji Atelier（小林賢二）
撮影取材・編集：小林賢二・伊藤・大川・猪股

小林賢二アトリエ　100life

特集　小林賢二さんとつくる庭②

楽しみをプラスする第二のリビング

東京都｜Y邸（ご夫婦２人＋お子様１人）

1
ストーリー

2軒目は、陽が燦々と注ぐY様邸のお庭。家の前の駐車スペースに、植栽に囲まれたアプローチと大きなウッドデッキを新たに設けました。きっかけはコロナ。車の買い替えを考えていた頃、外出が制限されるようになり、おうち時間が増えました。それならと以前から「お庭を変えたいね」と娘さんが描いていたスケッチを形にすることに。当初は玄関から伸びる既存アプローチは残し、中央に駐車するプランでしたが、小林さんが「玄関前を駐車スペースにしては」と提案。アプローチをデッキ横にするという、ご夫婦いわく「目からウロコ」のアイデアにより、お庭全体に一体感が生まれました。草花を眺めるだけでなく「水やりも楽しいんですよ」と奥様。濡れた敷石が艶やかで綺麗なのだそう。また、ふらっと立ち寄りやすいウッドデッキで、テイクアウトのお店を開いたら楽しそうだとメニューまで考案したご夫婦。お庭が新たな夢を膨らませてくれます。

娘さんが小学生の頃に描いた庭のスケッチ。

1.駐車スペースからの眺め。大工の益子友三さんが窓に合わせて斜めにカットしたウッドデッキが庭に奥行きを生んでいます。2.家全体の表情も緑で豊かに。3.高さも趣も絶妙な沓脱石。4.バランスよく配された緑。木漏れ日も庭のアクセントに。

1
2 3 4

1.緑に包まれた気持ちのいいスペース。木々が外からの視線を程よく遮ります。2.アプローチから見たウッドデッキ。3.小林さんのセンスが光る石畳のアプローチ。4.LDKから続く庭は第二のリビング。

1 2 3 4

▲ 寛ぎと おもてなしの場

テーブルを囲んで大人10人以上が座れる広さ。LDKからも外からも出入りしやすく「ウッドデッキにばかりいます」とご主人。読書したり、友人を招いてパーティーを開いたり、様々なシーンで活躍。先日はテントを張り、娘さんが友人とお菓子を持ち寄って盛り上がりました。

収穫も楽しみな キッチンガーデン ▼

小林さんが新境地と語るY様邸のお庭。普段は山取りの雑木類が中心ですが、ご一家のお好みを伺いながら、オリーブや柑橘類の実のなる常緑樹を多めに入れ、「収穫の庭」のイメージに合わせて香り豊かなハーブの下草も植えました。陽が燦々と注ぐこの庭の環境にピッタリのキッチンガーデン。Y様も収穫を楽しみにしています。

1.ブルーベリーの花。2.3.イタリアンパセリやカモミールなど足元には香り豊かなハーブも。4. 取材は４月、クリスマスローズが庭のポイントに。5.木々の変化が毎日の楽しみに。

1 5 2 3 4

小林賢二さん直筆のプラン

取材後記

取材後ウッドデッキでのホームパーティーにもお邪魔させていただき、ありがとうございました。ご主人のサンドイッチや奥様のチキンナゲットが絶品で、ついつい食べ過ぎてしまいました。ご馳走様でした！（記：ライター大川）

庭プランニング・施工：Kobayashi Kenji Atelier（小林賢二）
撮影取材・編集：小林賢二・伊藤・大川・猪股

小林賢二アトリエ　100life

ainoha

ー アイバノコトノハ ー

特集　その後どのように暮らしていますか？

草木が彩るless is moreな家

take free
ご自由にお持ち帰りください

2021＊April vol.112

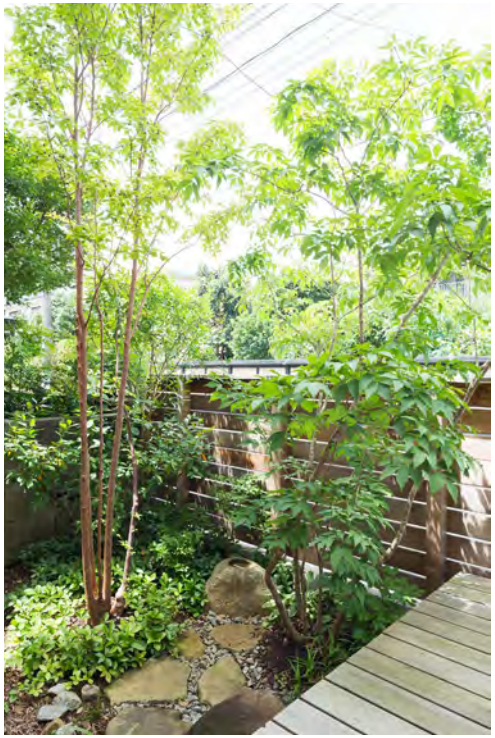
特集　その後どのように暮らしていますか？

草木が彩るless is moreな家

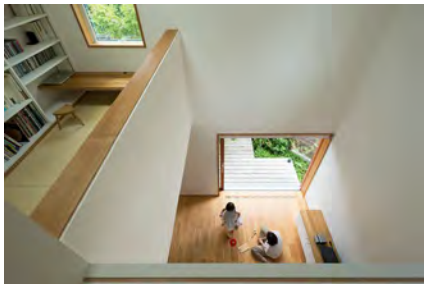
東京都国立市｜木造一戸建て（i-works）｜中村邸（ご夫婦＋お子様1人）

1 ストーリー

今回ご紹介するのは、竣工から2回目の春を迎える中村邸。当社設計部の中村健一郎さん自らが設計し、奥様と娘さんの3人でお住まいです。建築士の自邸と聞くと、どんなお宅なのか気になるところですが「特別なことはしようとは思わなかったですね」と健一郎さん。目指したのは“ちょっとだけ格好がつく普段着の家”だそう。賃貸の団地に手を入れながら暮らす中で「東京オリンピックを我が家で見よう!」とご夫妻で思い立ち、同じ国立市内で土地を探し始めました。この場所はやや予算オーバーでしたが、駅から徒歩圏内のため「車を持たないことで今後想定していた車の維持費を土地代に回わせるかなと」（健一郎さん）、購入。どうしても欲しかったという庭は、造園家・小林賢二さんに依頼し、隣家が迫る南側ではなく、道路側で開けた北側に設けました。「鳥や猫が遊びに来るんですよ」と奥様。様々な変化がある庭の話題で、自然と会話が増えるそう。夏に収穫したブルーベリーをジャムにするなど、四季折々を楽しむ中村邸の夏と冬の様子をご覧ください。



2
吹き抜けがある
のびやかなリビング



1
2 3
4

1.2階図書室とつながる吹き抜け。2.窓前が娘さんの遊ぶスペース。3.プロジェクターは画面サイズを変えられるのも◎ 4. ハンス・J・ウェグナーのソファ。アングルポイズのフロアランプも厳選アイテム。

豊かなお庭に面した1階の北側がリビングです。リビングは奥様ご希望の吹き抜けや、緑を望む大きな窓のお陰で開放的。窓を開け放つとリビングとデッキがひと続きになり、外と一体に。優しい陽を届けてくれる高窓からは「夜には月や星が見えるんですよ」と奥様が教えてくださいました。北側で吹き抜けもあると冬の寒さが気になりますが、OMソーラーの補助暖房のみでも、裸足で過ごせるほど暖かいそう。中村邸にはテレビがありません。その代わり、プロジェクター用に設けた白くて広い壁に投影。かつての旅先で気に入り探したハンス・J・ウェグナーのソファに腰掛けて、テレビや映画を見るのが一家の楽しみです。以前はエレベーターがない4階にお住まいだったため、娘さんとのお出掛けが大変で外が遠のいていたそう。現在は気軽に出掛けられる環境となり、近所の図書館や畑にほうれん草を収穫しに行くなど、戸建の暮らしを満喫していらっしゃいます。

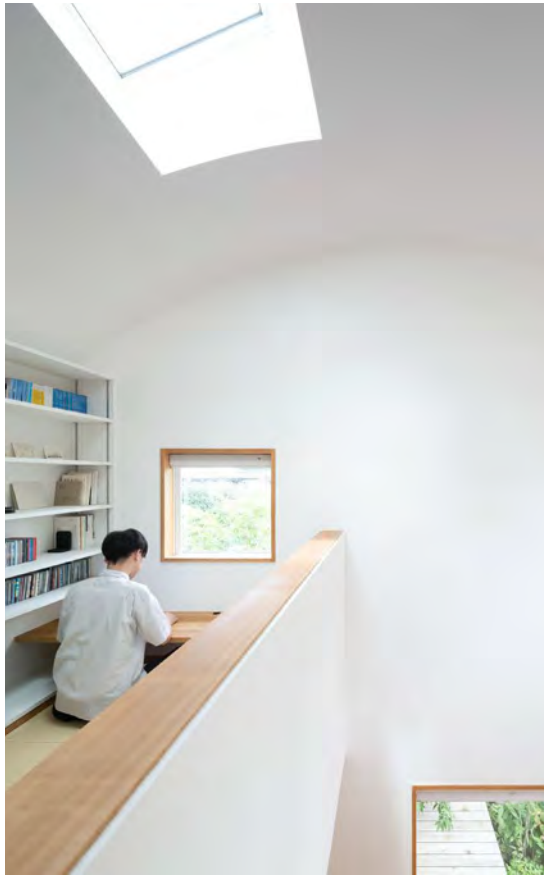
3
住まいのみどころ

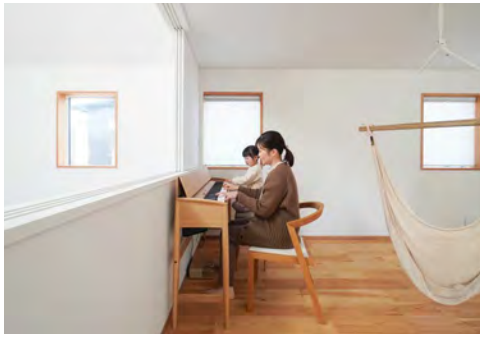
ライフスタイルに対応する2階空間

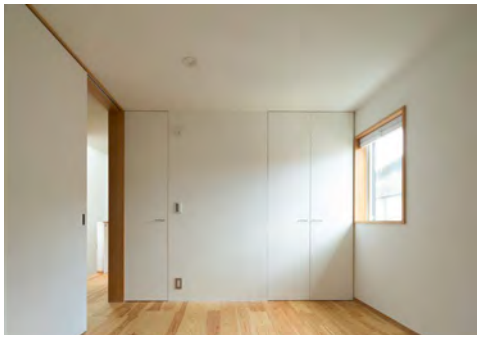
▼

図書室と将来の子ども部屋は、アール天井の吹き抜けを介してリビングとつながります。娘さんが小さいうちは空間を仕切らず、奥様が奏でるメロディーに合わせて娘さんが歌ったり踊ったり、ハンモックに揺られたり、のびのびとお住まいです。

1.畳敷きの図書室。窓から見えるようヒメシャラを配置。2.インテリア性が高い電子ピアノは、カリモク家具とローランドのコラボ製品。3.娘さんはハンモックが大のお気に入り。4.広がりのある子ども室の奥には、こもって落ち着いた雰囲気の寝室。







1.　暮らしに華を添えるこいずみ道具店のカップや桜の茶筒など。2.キッチンは炊飯器やトースターがなくスッキリ。3.板張りの洗面脱衣室も収納充実。4.奥様のデスクがある2階WIC。

▲

お気に入りだけのミニマルな生活

マットや必要以上の家電がなく、常に片付いた状態の中村邸。たくさん設けた収納は、無印良品のケースが収まるように奥行きを深くしたのがポイントです。物数が少ない分、一つひとつのセレクトにこだわり、旅の思い出などが詰まっています。

取材後記

ベランダもない中村邸。奥様は当初ベランダがない暮らしを想像できなかったと言いますが、花粉症なこともあり「乾燥機があれば十分」という考えに至ったそう。物が溢れる我が家を見つめ直すいい機会に。取材へのご協力をありがとうございました！
（記：ライター大川）

設計：中村健一郎　施工：相羽建設
造園：小林賢二アトリエ
写真：西川公朗　　撮影取材・編集：伊藤・大川・猪股
ainohaバックナンバー　http://aibaeco.co.jp/100story/life/

ainoha

ー アイバノコトノハ ー

特集　暮らしを豊かにする庭を訪ねて

小林賢二さんとつくる庭

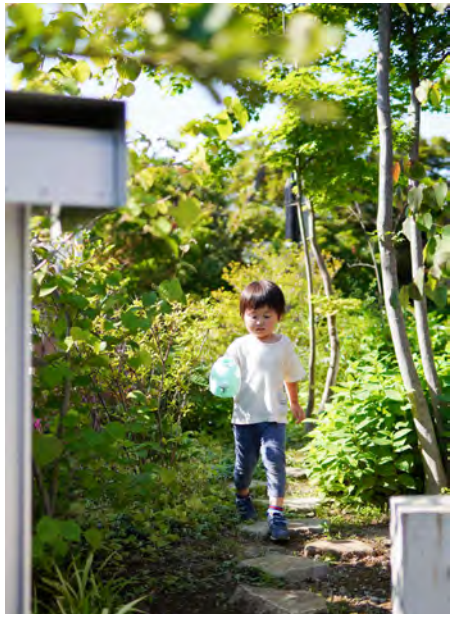
take free
ご自由にお持ち帰りください

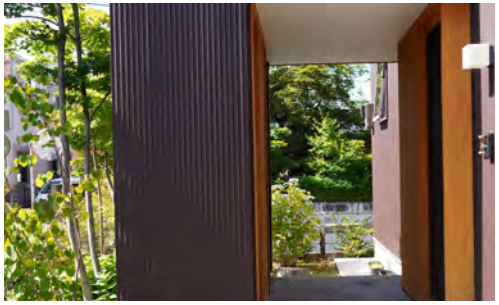
2020＊July vol.103

特集　小林賢二さんとつくる庭①

草木の折り重なりがつくる風景

東京都| A邸（ご夫婦＋お子様２人）





1
ストーリー

初夏の昼下がり、青空にほっとしながら閑静な住宅街を歩いて向かうとひときわグリーンが鮮やかな一角が。

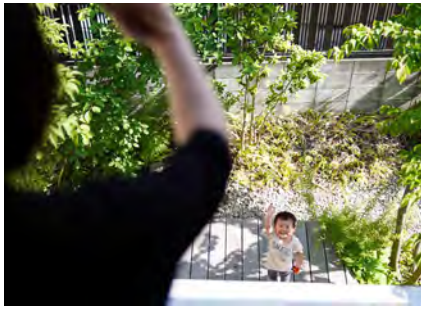
ゆとりある敷地に建つ小さなお家。それを青々とした木々と色とりどりの花たちが取り囲み、時折アゲハ蝶が羽を休めに訪れる。その景色はここが東京であることを忘れてしまうほどでした。

この素敵な住まいに暮らすのは4人家族のA様。ご夫婦ともに建築を学び、せっかく家を建てるのならば"ときめく"ものにしたいと設計を伊礼智さんに依頼。i-works2.0を基本にしながら、夫婦の希望を受けて「カスタマイズ」し、二人のこだわりがぎゅっと詰まった住まいとなりました。

「敷地に対して小さな家にしたのは空間を全て使い切りたいという希望からです。その分庭のスペースが大きくとれて生活がすごく充実しました。また小林賢二さんの庭は近景・中景・遠景、どれもすばらしい。庭があることで家が何倍もよく見えるねと夫婦で話しています」とA様。その言葉の通り、小林さんも"触発された"と語る、お向かいさんの美しい庭も含み、草木の折り重なりが作りだす奥行きのある風景は内からも外からも、どの角度から見ても美しい、街の豊かさにも貢献する素晴らしいものでした。

撮影は6月初旬。可愛らしい紫陽花がお庭を彩る。

1.木々の折り重なりが美しい風景をつくりだす。2.小さな路地のような庭。3.シンボルツリーのヤマモミジが青空に映える。4.アプローチからの風景。5.勝手口より。お向かいのお庭とナンテンが重なり、奥行きのある景色に。



1.リビングから繋がるデッキで家族団欒。2.ヤマボウシが成長し気持ちのいい木陰をつくる。3.庭の一角で泥遊び。4.二階の居室よりデッキをのぞいて、にっこり笑顔。

あそびも学びも団欒も

デッキはご飯をたべたり、お友達とBBQをしたり、"リビングの延長"のように使われているとのこと。「子どもは庭で泥遊びをしたり、草や実を摘んでみたり。家でも自然とふれあえて、小さいうちは四季の変化を学べる場にもなっているかなと思います」と奥様。

愛着を持って成長を見守る

A邸では2年前の新築時に植栽ワークショップを開催。小林賢二さんの指導のもと、参加者とともに植えた木々の成長は家族の楽しみになっているそう。「庭の話をするのが夫婦の日課になっています。自分達で剪定の本を読んで勉強したり、愛着を持って成長を見守ってます」と笑顔で語って下さいました。

1.ヤマボウシを見上げる小林賢二さん。2.「石の配置がすごく彫刻的で印象に残っています」とA様。3.ワークショップの様子。4.小林賢二さんの手書き図面。

取材後記

「先日、庭のユキノシタでを天ぷらにしてたべたんです。今後は家庭菜園もやってみたいです。また庭で家族で過ごすことが増えたことで、アウトドアにも興味がでてきて、今度キャンプに行こうと思っています」とA様。その笑顔から庭を通じて生活が充実している様子が伺えました。また四季の変化が寄り添い、自然と緑に興味をもてるこの環境は同じくらいの子を持つ親として、まさに憧れ。・・・まずは「うちも家庭菜園からかな？」思うのでした。（猪股）

庭プランニング・施工：Kobayashi Kenji Atelier（小林賢二）
撮影取材・編集：伊藤・猪股

ワークショップでの記念写真

特集　小林賢二さんとつくる庭②

居心地のいい「すごせる庭」

東京都東村山市｜ L邸（二人暮らし）

1
ストーリー

次にご紹介するのは2014年に相羽建設で自宅を建てたL様邸のお庭。

新築当初から庭のことはずっと気にしていたものの、当の庭は旗竿地の突き当たり。フェンスに囲まれ、上には大きなバルコニーがあるため暗い印象を持ってたといいます。ところが5年経ったある日、「ふっと思いたって庭にピクニックシートを敷いて過ごしてみるとすごく気持ちいい。囲まれて暗いと思っていた場所は逆に捉えれば周りの目が気にならず直射日光があたらない、とても過ごしやすい場所だったんです。そこから一気に庭への想いが加速しました」とL様。

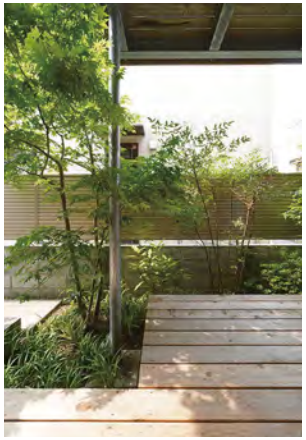
居心地のいい「すごせる庭」というご要望の通り、デッキに降りるとまさに木々に包まれている感覚。風が程よく通り、揺れる木漏れ日が心地いい、時間を忘れてしまうような空間でした。お庭での過ごし方を尋ねると、「天気のいい日に昼ご飯を食べたり、お茶を飲んだり。ゆったりくつろげる居場所が増えて、家で過ごす時間がより充実しました」と笑顔で語ってくださいました。

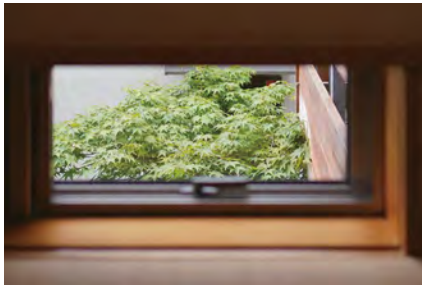
施工前（左）、施工中（右）の様子。土の色味もあり暗い印象だった。

1.デッキに座り四季の移ろいを感じるのが楽しみとのこと。2.ヤマモミジの向こうに、居心地のいい場所が。3.木漏れ日が気持ちいいデッキでゆっくりと。4.景色に馴染む自然な形の水鉢。

1
2 3 4

2
庭の魅力





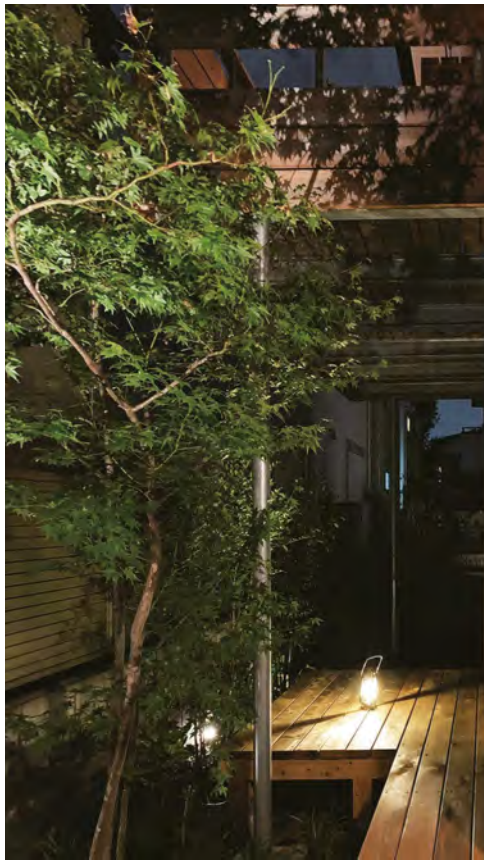
1.明るい2階のバルコニーは食事スペースとしても利用しているそう。2.1階居室からみた庭。3.4バルコニーから見下ろした庭。秋にはドウダンツツジが鮮やかに紅葉。5.小上がりの小窓からのぞくヤマモミジ。

家の中からも木々を感じる

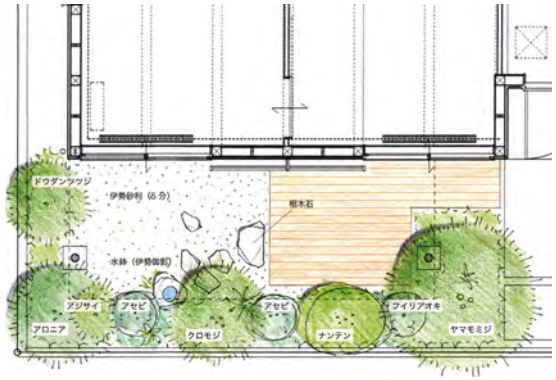
「"二階の小上がりの小窓からモミジがみえたらいいな"と話すと、小林さんがすぐにプランを変更、その足でぴったりの樹形のモミジを探しに行ってくださったのがすごく嬉しかったです」とL様。秋には小窓から覗く、日々色づくモミジの葉を見るのが楽しみに。

季節と時間の移ろいを楽しむ

小林さんの庭は冬に一気に枯れてしまうということがなく、季節季節で花が咲いたり、実がなったりと毎日変化があるのが魅力。L様も日々庭の話題が尽きないとのこと。「夜にはLEDランタンをデッキにだして過ごしたりして」と話す笑顔から、季節や時間の移ろいを楽しむ充実した毎日が伺えました。



1.モミジの影が印象的な夜の風景。2.ランタンは庭づくりの記念のプレゼントだそう。3.取材時（6月上旬）はアロニアの実がつきはじめ。4.小林賢二さんの手書き図面。



取材後記

手を入れたいところはありますか？という質問では二人が声を揃えて「今、大満足です！」とお答えになる様子や、保存されたたくさんの庭の写真を拝見して、お二人の庭への大きな愛が伝わってきました。取材後、お茶をのみながらデッキでお話させていただき、その愛に納得。あまりの居心地の良さに私もすっかりこの庭のファンになってしまいました！（猪股）

庭プランニング・施工：Kobayashi Kenji Atelier（小林賢二）
撮影取材・編集：伊藤・猪股
ainohaバックナンバー　http://aibaeco.co.jp/100story/life/
100 life